

大阪湾の環境と貝類

児島 格

大阪湾は瀬戸内海の東の端に位置し、明石海峡で播磨灘と、一方は友ヶ島を経て紀伊水道とつながる、2 か所の出入り口を持つ強内湾(閉鎖性の強い湾)です(写真 1)。湾内には河川が多く、特に湾奥には淀川、大和川などの流量の大きな河川があるため、湾内の塩分濃度は低く、湾奥部ほど堆積物で水深が浅くなります。また造成された関西空港島や沿岸部の埋め立てによる地形の変化は、潮流と底質環境の変化をもたらし、生態系にも大きな影響を与えました。



写真 1. 大阪湾の海岸線(Google map より転載)

貝類は、軟体動物門に属する仲間のうち、特に殻を持つものの総称で、大阪湾にはヒザラガイ類や腹足類(巻貝類)、ツノガイ類、二枚貝類などが生息します。日本周辺に生息する貝類は、覚えやすい概算で 8,880 種いると言われており、そのうち 8,000 種が海産、800 種がカタツムリなどの陸産、80 種はタニシやカワニナなどの淡水産とされています。大阪湾にはその内の 1 割近い約 800 種が生息します。

貝類はそのほとんどが底生で、水深、塩分濃度、地形や底質環境によって生息する種が異なり、食性や生息形態を変えることで棲み分けています。特に、潮の満ち引きで干出と水没をくり返す潮間帯部は環境が多様なため、多くの種が生息します。大阪府沿岸の潮間帯の地形は、和歌山県境から湾奥にかけてさまざまに変化します。湾口に近い和歌山県の海岸から小島、多奈川の豊国崎、淡輪の長松海岸にかけては岩盤や転石の変化に富んだ岩礁の海岸があり、比較的塩分濃度の高い環境に着生生活する種が多く生息します。せんなん里海公園辺りから二色浜にかけては人工的な海岸になり、海水浴場や海岸を取り込んだ公園として利用されています。砂泥底環境が多くなるため、生息する貝類も海底にもぐる種が多くなります。泉佐野辺りから湾奥部にかけては埋め立てられて沖出しの地形になっており、もとの砂浜海岸に変わり、消波ブロックが置かれて岩礁の環境になっています。そしてそこに生息する貝類も、砂浜に埋入する種から護岸に着生生活をする種に置き換わりました。また落合川、男里川、近木川、大津川の河口周辺にある河口干潟や前浜干潟には、塩分濃度の低い環境に生息する貝が見られます。さらに、関西空港島の護岸や

岸和田市沖に造成された阪南 2 区の人工干潟でも、それぞれ 100 種を超える貝の生息を記録しています。また沖に生息する貝類は、大阪湾で操業する底引き漁船の網に入った魚屑の中から探し出しすることができます。見つかる種は操業場所や水深によって異なりますが、漁が行われる最深部である水深 65m 位まで生息する貝を見ることができます。他に漁港の市場で売られている大阪湾産の貝を調べるのも方法です。また大阪湾では冬季に強い北西風が吹くことが多いので、この時期には北西向きの海岸に生きた状態で沖にすむ貝が打上げられることがあります(写真 2)。



写真 2. 大阪湾沿岸で打ち上げられる貝類。

大阪湾には、食用にされるアサリやマテガイ、サルボウ、タイラギ、トリガイ、アカガイ、アワビ、サザエなども生息しています。また帰化種のみどりイガイ(東南アジア原産)、コウロエンカワヒバリガイ(オーストラリア原産)、シマメノウフネガイ(北米原産)なども定着しています。立体的な環境の岩礁海岸や消波ブロック護岸では、垂直方向にすみ分けている貝のようすが観察できますし、河口干潟ではウミニナやホソウミニナ、フトヘナタリ、イシマキガイ、ウネナシトマヤガイなどが見られ、興味深い生態観察もできます。イシマキガイは川を遡って上流で産卵し、孵化したプランクトン幼生が海に下り、稚貝になってまた川を遡るという海と川を行き来する生活史を持っています。また干潟にいるホソウミニナは、プランクトン幼生ではなく、直達発生といって親貝の体内で卵が孵化して親と同じ形になるまで保育する変わった生活史をもつ生き物もいます。

大阪湾にも様々な貝の観察ができる場所があります。一度出かけてみてください。

(こじただす：自然資料館専門員)

平安時代の女流歌人和泉式部に関する伝説が市内にいくつか残されています。

^{とどろきがわ}轟川(春木川の上流)のほとりで、「とどろきや 川の瀬にすむ 鮎にこそ うるかといへる わたはありけり」と式部が詠んだと言われています。また、上松町と作才町には、「恋の淵」「恋ざめの淵」「どんび淵」という式部にまつわる伝説のある淵があります。恋の淵は、式部が思いを寄せる男性と一緒にここで顔を洗うと恋が成就した、恋ざめの淵は、ここで 写真 1. 恋の淵。



顔を洗って恋がさめた、どんび淵は式部が筆を投げ入れると蛙が泣き止んだ、というものです。また、下松町には式部が筆を埋めたという「筆塚」、硯を埋めたという「硯塚」と呼ばれる地があり、また、上松町は式部の出生地とする伝説もあります。

このように下松・上松・作才町の旧小栗街道(熊野街道)沿いに和泉式部にまつわる伝説がいくつも残されています。

ところで、和泉式部に関する伝説は岸和田だけでなく、日本全国各地に残されていますが、遠く離れた地に伝わった伝説の中には、よく似た話しがあります。例えば兵庫県赤穂市には次のような話が残されています。

姫路の書写山に参詣した式部がある家に泊まると、幼い娘が綿をつんでいた。式部がその綿を売るか、と聞くと、娘は「秋川の瀬にすむ鮎の腹にこそうるかといへるわたしはありけれ」と返したと言います。歌にある「うるか」とは鮎の内臓の塩漬けのことで、これを「売るか」とかけて歌っています。すでにお気づきでしょうが、この歌は轟川で式部が歌ったという歌とそっくりですね。他に福島県では室町時代の連歌師宗祇の歌として「阿武隈の川瀬にすめる鮎にこそ(以下同じ)」と伝わっています。いずれも川名を変えただけで同じ歌といってもよいでしょう。

かつて民俗学を提唱した柳田国男氏は、全国に残るこのような和泉式部伝説を集め、これらは中世以後に、^{くまのびくに}熊野比丘尼や^{こぜ}瞽女など、各地を渡り歩く女性芸能民が語り広めた伝説と考えました(『定本柳田国男集』第8巻)。熊野比丘尼は熊野大社の^{かんじん}勧進(募金活動)のために各地を巡り、瞽女は三味線を弾き語る盲目の女性芸能民です。

岸和田に残る式部伝説も、かつてこうした人々が語り伝え、いつからか地元根付いてきたのでしょう。特に熊野街道周辺に集中していることは、熊野比丘尼の影響を思わせますが、今となっては確かなことはわかりません。伝説は歴史上の事実とは言えない故に伝説なのですが、それが語り継がれ、現在まで伝えられてきたという事実は大切にしたいものです。

(やまなかごろう：郷土文化室)

Information

■岸和田城の展示案内■

企画展「新島八重と岸和田」

明治 11(1878)年 7 月新島襄がキリスト教伝道のため来岸し、同年末には新島八重が女性への布教のために来岸しました。今ドラマで話題の新島八重と岸和田との関わりやその背景、その後の歴史への影響等について関連資料によって紹介します。

期 間：2013 年 9 月 4 日(水)～12 月 1 日(日)

休場日：月曜日(祝祭日を除く)

時 間：10 時～17 時(入場は 16 時まで)

場 所：岸和田城天守閣 2 階展示室

入場料：大人 300 円 中学生以下無料

主な展示資料：

- ・新島八重書簡(山岡家蔵)
- ・新島襄書簡(山岡家蔵)
- ・熊沢友雄日記(高橋鐵彦氏蔵) ほか

■きしわだ自然資料館展示案内■

特別展「となりの大阪湾」

身近な海「大阪湾」の多様な生物やなりたちについて、標本や映像などで紹介します。大阪湾で見られる生き物たちを集めたミニ水族館もあります。

先生方の研修や、行事での見学は無料です。事前にお申し込みください。

期 間：2013 年 12 月 1 日(日)～2014 年 3 月 2 日(日)

休館日：月曜日(祝日は開館)・土日除く月末日・祝翌日・12 月 29 日～1 月 3 日

時 間：10 時～17 時(入場は 16 時まで)

場 所：自然資料館 1 階ホール

入場料：大人 400 円・中学生以下無料

主 催：きしわだ自然資料館

遠足や社会見学に、自然資料館をご利用ください。

自然資料館は、大阪南部のいろいろな自然を紹介する自然史博物館です。

展示室には、化石などの実物標本や模型、ジオラマ、体験コーナーなどがあり、見て、ふれて、体験することで、身近な自然をしっかりと学ぶことができます。

春の遠足や社会見学などに、ぜひご利用ください。ご予約のうえ、減免申請書を提出していただくと、教職員をふくむ全員の入場料が無料となります。雨の場合のみの予約も可能です。

近くには、岸和田城や城下町など、歴史の勉強ができる施設もあります。

お願い [fromM]は、学校教職員に 1 部ずつお配りください。

担当の方はお忙しいところ申し訳ありませんが、よろしくお願い申し上げます。

【from M】では、みなさまからのご意見、ご感想、ご質問等をお待ちしております。博物館での学習、研究等に関する情報、地域の自然環境や歴史に関する面白いトピックスなどがありましたら、ぜひご投稿ください。お名前、連絡先、所属等をご記入の上、右記の宛先までお送りください。電子メールでも受け付けています。

連絡・問い合わせ先

〒596-0072 岸和田市堺町 6-5 きしわだ自然資料館
TEL: (072) 423- 8100 FAX: (072) 423- 8101
Email: sizen@city.kishiwada.osaka.jp
自然資料館ホームページ URL:
<http://www.city.kishiwada.osaka.jp/site/shizenshi/>
(Yahoo Japan の検索で「きしわだ」と入力し、検索すれば、簡単です)